様式３

学校番号

40

令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立　香椎工業　高等学校

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	創造性に富むしなやかでたくましい工業人材を育成する学校 ものづくりの知識・技術の習得と各種資格習得に向けた学びを通して、心身を磨き、高い専門技術・技能を身に付け、 地域・社会に貢献できる知・徳・体の調和のとれた人材を育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に 関する方針）	・人としての在り方生き方を身に付け、主体性を発揮できる人材の育成 ・高い工業に関する専門技術・技能を身に付けて、地域・社会で必要とされる人材の育成 ・ものづくりを通して、チームの中で活躍できる人材の育成
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に 関する方針）	・ICT活用と観点別評価による生徒の学習意欲を高める授業展開 ・鎧兜の製作などの継承されるものづくり・引き継がれる伝統技術を守るための「課題研究」や「実習」を中心とした課題解決能力を育成するカリキュラム ・５つの専門学科とさらなるコース選択を通じて多様な生徒の創造力を伸ばす教育の実践
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに 関する方針）	・ものづくりや資格取得への興味や関心が高い人 ・運動競技や文化活動などで、自己実現のため努力する人 ・元気で明るく、自立心を持ち、リーダーシップを発揮する人

学校運営計画（4月）

学校運営方針			評価 （総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
「タフ」で「しなやか」な工業人の育成を図るため「『ものづくりは人づくり』～21世紀を勝ち抜く工業人の育成をめざして～」を経営方針として、校訓である「自立・協同」の精神を活かしつつ、次世代の工業人の育成を図ることを実践し、昨年度は、就職内定率100%をはじめジュニアマイスター取得数で全国上位等の成果を上げることができた。今後、大きな変革が予想される産業界において、読解力を身に付け創造力のある技術者を輩出することが本校の大きな使命である。今年度は経営方針に「 香工PRIDE ～夢へ挑戦～ 」を掲げ、「生徒一人ひとりの多様な進路実現」に向け、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。	授業改善により授業力並びに学力の向上を図る	○基礎学力とともに学び方を身に付けさせ、学び続ける姿勢を育む。 ○観点別学習状況評価と「指導と評価の一体化」により個々の資質能力を高める。 ○主体的・対話的で深い学びの推進とICT活用の充実により教育の質を向上させる。	A
	キャリア教育の充実により生きる力を育む	○3年間のキャリア教育推進プランを示し進路ガイダンスを充実させる。 ○外部講師、外部機関との連携により学びと実社会を繋げ学習意欲の向上を図る。 ○就職・公務員や大学進学等への幅広い進路指導体制を構築させ、個々の進路実現を図る。	
	工業教育の充実により次代を担う工業人材を育成する	○体系的・系統的にカリキュラム・マネジメントを推進し特色ある教育活動を実践する。 ○ものづくりをとおして課題発見力・課題解決力や製作工程などの管理能力を高める。 ○国家資格、検定試験、パテントコンテスト等々により資質能力を高める。	
	計画的組織的な道徳教育の展開・人権教育の推進を行う	○教育活動全体をとおして、社会性や「自立」「共同」の精神並びに人権意識を養う。 ○いじめ撲滅を目指し、いじめ撲滅委員会をはじめ全職員でいじめの見逃しをなくす。 ○特別な支援を必要とする生徒や気になる生徒の情報共有と早期対応を行う。	
	特別活動や部活動により豊かな人間性とさらなる学校活性化を図る	○計画的な特別活動の実施や部活動の充実により学校生活の満足度を高める。 ○様々な集団での体験により主体的態度や思いやりの心を育てる。 ○個々の教師のコーチングスキルを高め、生徒の将来へのモチベーションを向上させる。	
	広報活動の充実を図る	○中学校訪問、体験入学、ホームページの充実を図る。 ○学校評議員会・学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、教育活動の改善に努める。 ○特色ある教育活動を発信し生徒の自尊感情を高め地域から愛される学校を目指す。	

自己評価									学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部 教務課	基礎学力の定着 と応用力の育成	観点別評価を充実させ、生徒の学力と学習意欲の向上および職員の指導力向上で「指導と評価の一体化」を図る。	6割の生徒がChromebookを効果的に活用し指導していると評価していた。この結果から、多くの職員がChromebookを活用し、授業改善に努めていると考えられる。	A	A	A	○観点別評価における指導と評価の一体化及びChromebookを活用した授業が展開され、生徒の主体性と学習意欲が向上し、常に授業改善が図られている。 ○2学期の成績不振者指導(追指導)において、指導計画を提案し、追指導の充実を図る。		A	ものづくりの体験や工業に係る資格の取得を望む中学生が一定数いる中で、近年、香椎工業高等学校への進学を希望する生徒が増加している。背景として、日々の教育活動が地域から高く評価されている。
		Chromebookの効果的な活用を全職員で行い、生徒の学習意欲向上および主体的な学習につなげる。		A						
		各学期の追指導期間などを活用したきめ細かな指導により全生徒全科目履修および修得を目指す。		B						
	基本的生活習慣の確立	日々の生徒動態の把握と出席状況の報告により基本的生活習慣の確立を図り、年間皆勤者数250名を目指す。	多くの生徒が、アンケート等を通じて改善を図ってくれていると回答した。引き続き、アンケートの実施、集計、分析を迅速におこない職員が活用することで、生徒の声を大事にしていきたい。	B	B		○基本的な生活習慣の確立について大多数の生徒は学校に出席しているものの、一部遅刻・欠席等が目立つ生徒が見受けられる。各教科・科目の欠課時数の超過対策と合わせ、担任・学年・教科担任と連携した新たな指導体制を構築する。			
		授業アンケート、考査前家庭学習時間調査、学校満足度調査などを通して教育活動の改善を積極的に図る。		A						
		生徒動態の把握（まもるんの活用、出席停止生徒の把握）を工夫して業務のスリム化を図る。		B						
教務部 メディア課	広報活動のさらなる充実	中学校訪問、広報紙やHPの有効活用、各種学校説明会の積極的実施により広報活動のさらなる充実化を図る。	中学校訪問やはまおスクール等、職員及び生徒からの協力を頂き終えることができた。さらなる広報活動に努めたい。	B	A	A	本年度、公式インスタグラムを開設することができ、新たな情報発信手段を得た。しかし、システムが変更になったこともあり、ホームページの更新が不十分な個所もあった。更新手順を改めて周知し、各部署へ声掛けを行うなど、連携を取りながら広報活動の充実を図る。		A	体験入学は様々なコースの取り組みが面白い。さらに時代に対応した内容を創り出してほしい。 インスタグラムやHPの情報更新には楽しませてもらった。今後とも、学校内外での生徒たちの活躍を保護者や地域の方々に発信し続けてもらいたい。
		各専門学科との連絡を密にし、はまおスクール、出前授業、中学生体験入学のさらなる内容の充実化を図る。		A						
		新ホームページを有効活用やはまお安心メールの活用により、日常の教育活動から緊急時の対応など幅広く情報を発信する。		A						
	ICT教育の推進 と各種管理	Chromebookの有効活用を進め、生徒の学習意欲を高めると同時に、教員の業務のペーパーレス化・スリム化を図る。	9割以上の生徒から、Chromebook等のICT機器不具合発生時への対処は適切に行われている、と回答があった。引き続き迅速な対処に努めたい。	B	A		chromebookの活用については、定着が図られる一方、不具合等の件数も増加傾向にある。毎日使用するため、管理については一層の注意喚起等改善を図る。また、支援員による研修等を充実させ、授業への活用や業務のスリム化を図る。			
		電子黒板型プロジェクターやChromebookなどの機器の故障や不具合に適切に対処する。		A						
		ネットワーク環境の整備を継続して行い、セキュリティや個人情報の管理を徹底する。		A						
生徒指導部 生徒指導課	規範意識の育成	常に就職試験を意識した頭髪・服装を心がけさせ、保護者と連携を図りながら、規範意識を育成する。	アンケートによると「あいさつの励行」が大変よくできている、よくできていると60%の生徒が答えている一方、できていない、あまりできていないと答えた生徒が20%いた。スクールミッションに照らすとまだまだ不十分なものとなった。若者らしい自然で元気なあいさつが発せられるようさらなる努力を要する。	A	A	A	風紀検査の実施方法の改善を図る。常に就職試験を意識した指導を全職員で共有する。生徒指導課の職員が中心となり、全職員が関わりやすい指導体制を構築する。		A	あいさつの指導に力を入れられている点は、感心した。明るさと元気を私たちもいただいている。ぜひ今後も継続していただきたい。
		教員と生徒との元気ある挨拶を励行し、コミュニケーション能力を高め、良好な人間関係を構築する。		B						
		交通安全教室や登下校指導を実施し、交通安全・登下校マナーを意識した行動をさせる。		A						
	安心できる学校生活と部活動の活性化	いじめ・学校生活アンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応で見逃しゼロに努める。		A	B		いじめチェックリスト（保護者用）のスムーズな確認と対応。保護者との連携、信頼関係を築く一助になるよう利活用を図る。 県大会出場等活躍する部活動が増え、広報面においても支援する。タイムリーで、迅速な広報ができるよう流れを構築する。			
		中学校との情報交換を積極的に行い、教員間の連携を深めるとともに更なる競技成績の向上に努める。		B						
		部活動の活動報告をホームページ・中学校訪問などを活用して広報する。		B						
生徒指導部 生徒支援保健課	保健管理・健康教育の充実を図る	日頃の健康チェックを徹底させ生徒の怪我や病気、感染症に対して迅速に対応させる。	朝食についてのアンケートを実施した。朝食を食べずに登校している生徒が多数いた。朝起きて水分も取らず登校する生徒もいる。熱中症や食事の大切さについて今後も指導していきたい。	B	B	B	継続して感染症予防について指導していく。体調の変化に気づかず登校して、早退や保健室にて休養している生徒もいる。また、保健室利用の状況を速やかに把握できるように連携を図る。		B	コロナ感染症も落ち着いてきた。貴校在学生は、小中学校で様々な制約を受けてきた。思いっきり活動できるよう心身ともに鍛えていただきたい。
		生徒の心身の健康・保持増進を図るために、援助や指導を充実させる。		A						
		安全・健康な学校生活を過ごすために自己管理の能力を向上させる。		B						
	環境美化活動の実践	日常の清掃を大事にし、美化活動の充実と徹底を図る。	掃除の徹底について、今後も指導していきたい。また、実習や実技で活動する場所の安全確保からも整理整頓についても指導していきたい。	B	A		共用スペースの掃除について共通理解を図り、快適な空間づくりをめざす。整備委員会とも協力して掃除の徹底を図りたい。			
		生徒会や整美委員会の更なる充実を図る。		A						
		古紙分別を徹底し、ゴミの減量・再資源化を促進させる。		A						

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生徒指導部 生徒会指導課	学校行事と日常生活の充実	職員間で役割を分担し、各行事の運営に関して生徒が計画・立案に関わり主体的に運営できるようにする。	リーダーを中心に生徒が主体的に行事を運営することができた。生徒同士の意見が衝突する場面もあったので、教員がフォローできるようにする。	B	B	B	○職員間での連絡を密に行い、生徒と協同して行事に取り組めるようにする。 ○生徒間での意見の交換が教育効果をもたらすように、細やかな様相観察と適切なフォローをできるようにする。	B	校外の清掃活動やあいさつ運動にご尽力され、感謝している。近くの中学校でも注視しているので今後も活動を継続していただきたい。
		科・クラスのリーダーを早期に発掘し、自主運営させる事で資質・意識の向上を図り、行事の成功に導く。		A					
		ICTの活用と定例会の回数増加及び内容の充実を図ることによって、生徒間でのコミュニケーションを密にとれるようにする。		B					
	学校行事と日常生活の充実	学期に1回の校内での挨拶運動と、香椎駅を主とした地域の中での挨拶運動でコミュニケ―ション能力の向上を図る	アンケートより挨拶運動に関して、「できていない」という意見が6割あった。地域の貢献活動などが部活動生や生徒会のみとなっていたので、もっと周知が必要だと感じた。	A	B		○挨拶運動の周知とともに校内のみではなく、校外、地域の方への挨拶、感謝の気持ちをもって声掛けをしていく。 ○地域貢献活動や挨拶運動など多くの生徒と、PTAと協同し学校全体で取り組めるようにする。		
		委員会が中心となり、日頃の感謝を込めて学校周辺の地域貢献活動を行う。		B					
		本校を含めた近隣7校で合同役員会を年に2回実施し、生徒会の親交を深め生徒会役員としての意識の向上を図る。		B					
進路指導部 就職課	進路決定100%の実現	全職員による面接指導を早期に実施し、12月までに生徒の就職を決定する。	面接等の進路指導の満足度について生徒から高い評価を得た。学年によって意識の差がある。改善する必要性は感じる。	B	B	B	○面接意識付けを6月から面接練習を7月に早期に実施する。 ○履歴書作成指導は、8月上旬には、志望の動機を作成するなど早めの対策を講じ、面接・筆記試験対策等時間の確保に努める。	B	進路先については、大手企業をはじめ地元企業の就職先からの信頼を得ている。また、キャリア教育入学時から卒業までの指導も高く評価をしたい。また、PTAとしてキャリアきゅいくの講師選定棟支援したい。
		各学年・学科と情報を共有し、就職試験1次合格率85%を目指す。		A					
		生徒一人ひとりの進路実現に向けた就職指導の充実を図り、希望進路の合格率向上を目指す。		B					
	学年に応じたキャリア教育の充実	外部講師によるマナー指導等の進路学習会を各学年2回以上する。	キャリア教育の指導内容は3年生は概ね良好であるが、1．2年生に関しては一部不十分と意見があり、充実していく必要性を感じた。	A	A		○1・2年生に対しての進路意識の向上をめざし来年度は①1．2年生に対してキャリアパスポートを活用し、②3月に1・2年対象に進路ガイダンスを実施し、進路意識の向上を図る体制を整えていく。		
		3年生による就職・進学報告会や卒業生講話を充実させ、進路意識の高揚を図る。		A					
		インターンシップや職業インタビューを夏季休業中に実施し、就業意識や社会性を培う。		A					
進路指導部 進学課	進学指導・支援体制の整備と充実	進路説明会を各学期1回以上行い、進路に関する情報を生徒に提供する	進学説明会を学期に1回は実施し、情報提供に満足してる生徒6割というアンケート結果であった。	A	B	B	○年度途中から進学に変更する生徒に対して補講等を実施する。1年次から進学に関する情報提供を行い、進学を考えている生徒の意識を高め、途中から進学に変更する生徒に対しても対応できるようにする。	B	進学先及びキャリア教育に関して、オープンキャンパス参加や進学説明会の企画や等一定の評価を頂いた。課題である基礎学力向上を図るためにに一層の努力を求めます。
		2学年と協力してｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ事前指導の運営を行うなど、2学年進学生徒のガイダンスを行う		A					
		経済的な状況による就学・進学困難な生徒に対する奨学金の案内等を充実させる		B					
	多様な生徒の可能性を伸ばす進路指導の充実	各担任との情報交換を行い、上級学校の進路説明会への参加を促す。	上級学校の進学指導については3年生は概ね良好であったが、進学学習会やスタディサプリに関しては1・2年生に関しては不十分であったという意見があった。	B	B		○進学学習会の参加が少ない現状がある。四年制大学等の進学希望者全員に進学模試の受検を促し、現状を理解させる。また、卒業生の模試結果を整理し、よりきめ細やかな進学指導をおこなう。		
		「スタディサプリ」を活用して、1学年生徒の基礎学力の向上を図る		B					
		進学学習会における四年制大学等への受験指導を充実させる。		B					
総務部 研修課	授業力・生徒指導力の向上	主体的・対話的で深い学びの推進やICT活用の充実のための研修と情報提供を行う。	ICT活用や授業研究の効果として教室以外でも画像やPCを用いた授業が行われることが多くなっているとの声がある。	B	B	B	研修後のアンケートを分析して、実態に応じた研修を計画していく。OJTによる発信力の強化に力を入れる。	B	研修等生徒達のために頑張っていただいており、地域企業も多方面に協力している。
		授業研究週間を効果的に活用できるように実施する。		B					
		組織的な指導体制をつくり、充実した初任者研修を実施する。		B					
	職員研修の充実	本校の教育課題に応じた校内職員研修会を実施する。	勉強以外の研修（職員間の情報交換等）によって、個々の生徒の服装や生活習慣にも注意を払ってることがわかる。	A	B		近年は、ICTと半導体関連の講習などが多く、工業の基礎的部分の研修先との連携をより活発化させる。本校の教育課題の研修において職員の実践例の活用を増やす。また、長期休暇期間を利用した教科指導力向上研修を設ける。		
		自己研鑽の場として、校外研修への積極的な参加を促す。		B					
		学校のチーム力向上に向けて、運営委員の研修会等を行うとともに、職員間のコミュニケーションが図れる研修を実施する。		A					

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
総務部 庶務課	庶務課行事の充実及び円滑な運営	各行事に協力して業務に取り組めるよう、担当者が連絡・説明を確実にする。	行事・式事など無事に進行しアンケートによって、多くの生徒が満足できていると判断出来る。	A	A	A	各部署に余裕ある起案や資料提出の協力をお願いする。 庶務課だけでなく時期に応じて総務部全体で取り組むことも必要である。	A	職員間で広く協力しあい、多くの保護者との関係・連携が一層深く取れるよう行事の案内をこれまでのように、今後ともお願いします。
		昨年度の反省をもとに、各行事の工夫・改善を行うとともに、行事ごとに反省アンケートを実施する。		A					
		運営委員会・職員会議の議題を取りまとめ、円滑に実施する。		A					
	PTA活動、行事の活性化	PTA役員会、委員会と学校職員との連携を密にしPTA行事の充実を図る。	PTA役員の方々の支援・協力により、放生会や地域活動と文化祭体育祭など生徒が思いっきり頑張れた。	A	A		PTA役員の方と関係教職員との連携をより広げる。職員の参加の増加が望まれる。また、学校行事への一般保護者が参加しやすい様に案内を早期に発信する。		
		各委員会の自主的活動の推進・支援を行い、活性化を図る。		A					
		一般保護者の各行事への参加10%増を目指し、役員会・各種委員会と連携して企画・運営をする。		B					
1学年	基本的生活習慣の確立	授業や学校行事等を通して、規律・ルールを守り、他人の気持ちを考えて行動できる生徒を育てる。	アンケートの結果より、大半の生徒が明るい挨拶と素直な気持ちで返事ができると評価していた。	A	A	A	規律、ルールの確認、指導の方向性など統一し、今後も継続して行う。教員側から積極的に挨拶をする。事案ごとに現場での即時指導を促すとともに、皆勤者を増やすため学期ごとに表彰をする。	A	高校を卒業して働く生徒に最も必要とされるのは、元気で素直であることだ。今後もしっかり挨拶をし、素直に対応できる生徒の育成に力を入れてほしい。
		明るい挨拶と素直な気持ちで返事ができる生徒の育成を目指す。		A					
		欠席・遅刻の指導を徹底し、1ヵ年出席皆勤者140名を目標とする。		B					
	基礎学力の育成	各教科の基礎・基本となる学習内容を授業の中に取り入れ、学力向上に努める。	キャリアパスポートを通して、進路実現につなげるキャリア教育の充実に努めることができた。	B	A		基礎学力の向上のためオンライン教材を利用した。時間を確保し学力向上につなげていく。教科担任・各分掌・保護者との連携を早期に行い、問題対応をしていく。進路指導部と連携し、次年度もキャリア教育の充実を図る。		
		教科担任・各分掌・保護者との連携を図り、問題点に対し早期に対応する。		A					
		進路指導部や各学科と連携しながらキャリア教育の充実に努める。		A					
2学年	基礎力の育成	学習環境を整え、規律ある学習態度を育て、自ら学ぶ力を育成して、一歩ずつ進めさせる。	アンケートの結果を踏まえ、半数近くの生徒が適切であると評価していた。しかしやや適切でない等の評価もあるので、次年度の課題として検討したい。	B	A	A	学校行事を重ねるなかで集団生活における規律や協調性について確かな成果が表れた。次年度は最高学年として下級生をリードできるように指導していきたい。時間の厳守に際して、提出物の期限を守る意識は高まってきたので、次年度は更に徹底していきたい。	A	次年度は進路実現に向けた取組を進めるとともに、最上級生としてリーダーシップを発揮し学校活性化に努めていくように指導してほしい。
		挨拶の励行や時間の厳守など徹底した生徒指導を行い、規範意識を高める。		A					
		「修学旅行」や「体育祭」等の学校行事を通して、集団生活における規律や協調性を養わせる。		A					
	自己実現に向けた取組の実施	進路指導部と連携し、就職や進学の指導を行い、次年度のスムーズな進路実現へとつなげる。	アンケートを踏まえ、半数近くの生徒は適切であると回答している。次年度は進路実現のための活動となるので、保護者にも協力していただき指導を進めていきたい。	B	A		「インターンシップ」や「工場見学」を通して、自己実現に向けての就業意識や社会性を高めることができた。次年度はこの体験を基に学年団や進路指導部を中心に進路実現に向けて全職員で指導していきたい。		
		「インターンシップ」や「工場見学」等の取り組みを通し、就業意識や社会性を高める。		A					
		担任を中心に学年団・各科・及び保護者と連携を図り、生徒一人ひとりに目を向け、手厚い指導・助言を行う。		A					
3学年	最上級生としてのリーダーシップの育成	最上級生としての役割を認識し、自覚させ、率先した行動をとれる生徒の育成を図る。	アンケートでは、各行事においてリーダーとして積極的に関われたという意見も多く見え成果を上げることができた。	A	A	A	最上級生として各業においてはリーダーシップを発揮できるように計画的に指導できた。生徒主体という点においても達成できた。次年度については下級生に繋がるように情報や課題点を共有していきたい。	A	ほぼ全員が進路実現ができたことが素晴らしい。卒業後も社会の中で厳しい状況もあるかと思うので、今後も見守ってほしい。
		積極果敢にコミュニケーションを図り、考えや意図が相手に伝わることのできる生徒の育成を図る。		A					
		生徒主体で行える学校行事作りを行う。母校愛に溢れ、後輩思いの上級生としての資質を養う。		A					
	進路実現と進路先での活きる力の育成	学校や公共の場でのスマホの取り扱い方法、倫理観の育成を促す。	スマホについては、学年の意識を高めながら指導を行った結果、アンケート等でスマホの取扱いに注意をしたという生徒が多く見られた。	B	A		進路実現については達成することができた。段階的にガイダンスをすることを次年度に課題点として引き継いでいく。		
		担任団の連携、進路指導部と専門5科との連携を密にとり、進学・就職の情報を共有する。		A					
		成人年齢となったことを自覚させ、責任ある行動ができるよう導く。		A					

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
電気科	基本的生活習慣・学習支援の確立	保護者・教員間の連携を密にし、生徒の状況把握に努め、欠席・遅刻数の減少に取り組む。	ほとんどの生徒・保護者が学科の指導に対して理解し、お互いの協力体制が出来ている。これが全員になるように、更に保護者との連携、生徒のの繋がりを密にする動きをしていきたい。	A	A	A	次年度は学習課題の解決については各教科担当を中心として、科内での連携と情報交換を密にすることで成績不振者に対する対応を強化していきたい。また、クラスにより生徒状況が異なってくるので、グラスに応じた指導体制強化を図りたい。	A	資格試験に対する指導体制とその成果は高評価にあたいする。3年間を通して電気系専門職の人材を育成していることが分かった。安全指導・品質管理に関する内容も取り組んで頂きたい。
		生徒の学習上における課題（成績不振等）を教員間で共有し、学習課題の解決に向け、支援を行う。		B					
		理数・工業系の学習に対して、興味・関心を高める授業づくりに努める。		A					
	資格取得者数・合格率の向上と進路指導の充実	資格取得の指導体制の充実を図り、電気系国家資格の取得数・合格率の向上に努める。	アンケート結果からキャリア教育に関してはほとんどの生徒・保護者が出来ているという感想を頂いた。3年間を通して資格試験・キャリア教育に全職員で取り組み、産学官連携の取り組みから得られた結果と思われる。	A	A		資格試験取得指導に関しては年間通して全職員で行ってきた結果、生徒・保護者にとってほぼ満足な結果であった。次年度は資格指導の精選を行いより効率的な指導体制を確立したい。職業・職種への興味・関心については、工場見学や産学官連携による外部講師を更に活用していきたい。		
		各学年のキャリア教育を充実させるとともに、3年生の就職合格率を100%を達成する。		A					
		企業と連携を図り、生徒の電気系職業・職種への興味・関心を高める。		A					
機械科	安心と基礎基本による学力向上を図る	成績不振者を中心として個人に合わせた学び方や学習方法を指導する。	社会へ出るための実践力を向上させるため、基礎学力やマナー、安全に対する意識を持たせることができ、大きな怪我もなく指導できた。	A	A	A	提出物の提出率100%と考えているが、提出物等の期限を守ることや理解力、表現力、挨拶や返事、質問できることがどう社会で役立つのかなど理解をもっと深める必要がある。教員間でのコミュニケーションを充実させたい。	A	安全指導やマナー指導といった基礎・基本をしっかりと指導されていることに共感しました。3年間で実社会で通用する工業人を育成していることが分かった。品質管理に関する内容も指導に取り入れて頂きたい。
		ノートやレポートの見やすさの工夫を通して理解力や表現力を鍛える。		B					
		さわやかな挨拶や返事の習慣化し、他者への思いやりの心を全職員で取組む。		A					
	学科のPR活動を充実する	体験入学の充実を進め、工業高校（機械科）のものづくりの楽しさをアピールする。	機械科は金属加工のイメージが強くあるため、学校紹介やパンフレットなどではPCなどを使用した実習があることをPRできた。	A	A		安全第一を掲げ、ものづくりに対する積極性を持たせるには教員が明るく、元気に説明することが重要であると考えるため、多方面にも知識を持つことが必要である。メリハリのついた指導を徹底したい。		
		実習環境の向上と内容の充実を図り、機械科の3Kイメージの改善に努める。		A					
		ホームページの科に関する活動の紹介をスムーズに4回以上更新する。		B					
工業化学科	基本的生活習慣の確立と進路実現	頭髪・服装・挨拶などの指導を全職員で行い、社会人としての「マナー」や「モラル」を身に付けさせる。	8割の生徒が、社会人としてのマナーやモラルを身につけるための指導をしていると評価していた。職員一人一人が丁寧に指導してきた結果だと考えられる。	A	A	B	教員一人一人が制服の着こなし等の指導を細目に行ったり、定期的に情報の共有を行うことができた。次年度は、より組織的に対応できるように学科の職員で手立てを話し合い、指導を強化していきたい。	B	評価方法やICT活用についての工夫をされていることを感じた。来年度は各職員のスキルを職員間で共有して頂きたい。安全指導や品質管理に関する指導も更に徹底して頂きたい。
		欠席・遅刻・早退の減少を目指す。気になる生徒に関しては情報の共有を行い組織的に対応する。		B					
		学年や進路指導部と連携し、生徒の希望と適性に応じた指導を行い、第一希望の進路実現を目指す。		A					
	職員の教科指導力・生徒指導力の向上	科内で評価方法やICT活用について検討し、授業改善に努める。	多くの生徒が、ICTの活用や授業における工夫を行っている教員が多いと回答した。この結果から、職員一人一人が授業改善に努めていると考えられる。	B	B		科の職員一人一人が評価方法やICT活用について検討し工夫をおこなってきた。次年度は、実習における評価方法やICT活用について、科の職員で共有できる場を設けることで科全体の授業力の向上を図りたい。また、引き続き、教員内での技術・指導力の継承と向上に努めていきたい。		
		教員内で技術・技能・指導力の継承と向上を行う。		A					
		科の職員全員で生徒指導を行い、組織的に対応するとともに、個々の指導力を向上させていく。		B					
情報技術科	主体的に行動できる生徒を育てる。	遅刻者を減少させるとともに全学年毎月の出席率98%を維持する。	アンケートの結果約9割の生徒が帰属意識を育てる指導が行われていると回答していた。1割の生徒がどちらともいえないという回答であった。	A	A	A	学科全体の出席率は99.1%であった。アンケート結果から、学校生活を通じて、帰属意識を育てることができており、この結果が出席率にも影響しているのではないかと考える。次年度は今年度に引き続き、規範意識を育てていきたい。	A	出席率の高さは、生徒一人ひとりが帰属意識を持ち、自己肯定感を持てていることの現れと感じた。社会的ニーズの高いITパスポートに対する資格指導を強化を図り、取得者を増加させていただきたい。
		学校生活を通じて、互いを尊重する心を身に付けさせるとともに、学科や学校への帰属意識を育てる		A					
		挨拶の励行、言葉遣いの指導を日常的に行い、社会人としての規範意識を育てる。		B					
	学力の向上及び資格試験等に自ら取り組む態度を育てる	教員間で連携し情報共有することで、生徒個人に対応した教科指導を行う。	数人ではあるが、ITパスポート試験を学科で指定している取得推奨期間よりも前に取得する生徒がいた。日頃の指導によって、取得に対する意欲のある生徒が多い。	A	A		日頃から、生徒の言動等を学科内で共有し、学習指導にとどまらず、生徒指導にも生かすことができている。次年度は教員の指導力をさらに向上させ、ITパスポート試験の取得者数を増加させていきたい。		
		学科内におけるITパスポート試験の取得者30人以上を目指す。		A					
		教員間で技術・技能・指導力の継承と向上を行う。		B					

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
電子機械科	基本的生活習慣の確立と進路指導体制の充実	遅刻･欠席が当たり前ではない指導を担任だけでなく、学科職員全員で行う。	外部講師からの指導は新鮮で普段とは違う視点でのアドバイスもあり、とても役に立った。また、技能検定を受験するきっかけにもなり、有意義なものであった。との回答が大半を占めた。次年度も継続する方向で検討している。	A	A	A	定期的な学科会議だけでなく、日常的に欠席や遅刻が目立つ生徒など職員内で共有することができた。家庭訪問や保護者対応など学科として対応する場面もあり、次年度も丁寧な対応を継続していきたい。	A	学科集会という工業高校ならではの取り組みを有意義に活用し、学校生活を充実したものにして欲しい。また、卒業生講話は、素晴らしいと思う。是非、次年度も継続して欲しい。
		一人一人の進路実現のため面接指導やアドバイスを積極的に行う。		A					
		外部講師を招聘し、高度な技術を学ぶと共に職業観を身につけさせる。		A					
	学科集会の充実とHP更新内容の充実	学科集会で学年が交われる催しを行ない、縦の繋がりを意識させる。	・本学科の卒業生を講師として招聘し、講話をしていただいたこともあり、将来像がイメージできたなど効果的な学科集会にすることができたと考える。 ・HP更新については、約半数が充実しているとの回答があった。次年度はより内容を充実したものにしたい。	B	A		学科集会が学年集会になったりと、年度当初の行事予定と異なったため、十分な活動ができなかったことから綿密な計画が必要であると考える。 HP更新では日頃の実習内容と雰囲気が伝わる内容になるよう撮影などに配慮をした。次年度も電子機械科を発信していきたい。		
		電子機械科の卒業生による体験談や近況報告などを通じて、将来への意識を高めさせる。		A					
		最低でも2か月に1回はHPを更新し、学科の広報活動を充実させる。		A					
普通科	確かな学力と人間性の育成	ChromebookなどのICTの活用を積極的に行い、グローバル社会、超スマート社会を生き抜く学習意欲と基礎学力の定着を図る。	アンケートの結果にはばらつきがあるものの、日ごろの授業への積極性や学習習慣に結び付いているものもいる。	A	A	A	定期的な課題や、単元テスト、個別指導を通じて効果をあげている。また各教科・科目間の課題等のバランス、量や質などについて連携をとることは、生徒の学習意欲を高めていくうえで、普通科全体での考察を推し進めたい。	A	学びの基礎を育成する部門として、今後も生徒たちが生き生きとした表情で取り組むことができる授業の実践に努めていただきたい。
		習熟度別授業や個別指導で個々の生徒の学習支援を充実させる。また、情報交換を密に行い、生徒の状況把握に努める。		A					
		学習姿勢に係る指導をとおして、場面に応じて自立または共同して学習する人材を育成する。		A					
	教科指導を通した生徒の希望進路実現の支援	進路指導部、各専門科と連携し、キャリアガイダンスを充実させた進学や就職支援を行う。	アンケートの結果全体を通して見ると、普通科の授業を受けることを学校に通う意味の一つとして捉えている生徒もいる。	A	A		困りごとのある生徒の情報については、システム化され、把握できるようになった。また、アンケートの結果より、普通科の授業を学校生活の拠りどころとしている生徒もいる。生徒教師間、教師間のコミュニケーションをさらに風通しの良いものにしていく。		
		一般教養、体力、生きる力の向上につながる授業を実践することにより、生徒の進路実現に寄与する。		A					
		基礎･基本を充実させる授業をとおして、生徒の自然科学、社会科学への興味関心を高め、進路選択の幅を広げる。		A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・エンジニアになりたい、社会に貢献したいという気概を育成する教育環境づくりを今後とも推進していく。

・学校の外でも、また卒業した後も香椎工業で学んだ自立と協同、基本的な社会人としてのマナーや姿勢を維持できるように主体的な学びを引き出すよう指導法を見直す。

・ものづくりをしたい、資格を取得したい、早く社会に出たいなどの若者を育成する工業高校として、地域のニーズに応えられる体制をつくる。

・社会人の基本となる挨拶やマナーの指導の徹底とともに、学び成長する姿勢をつくる。

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	